



29 バングラデシュ チッタゴン空港 開発事業

空港の整備によりバングラデシュの
世界への玄関口を拡充

承諾額／実行額	109億4,300万円／108億5,000万円
借款契約調印	1996年8月
借款契約条件	金利1.0%、返済30年(うち据置10年)、一般アンタイド
貸付完了	2003年11月
実施機関	民間航空局

本事業の目的

チッタゴン国際空港を整備・拡張することにより、旅客および貨物の需要増への対応、安全性の向上、ダッカ国際空港が気象条件により使用できない際において代替する着陸先空港の確保を図り、同国の経済成長に寄与することを目的とする。

本事業実施による効果(有効性・インパクト) 評価a

本事業において滑走路等を含む空港内の施設が整備されたことにより、年間の航空機発着回数は、事業実施前の10,490回から18,960回(2004年)へと大幅に増加した。それに伴い、国際線の年間旅客数は当初計画の199,500人に対し、236,283人と計画を上回っているものの、国内線の実績値は当初計画には満たなかった。また、貨物輸送量については、国内線は計画を上回っているが、国際線の伸びが小さく、総合的にみると計画を下回ったことが確認されている。航空機発着回数の増加に比して、旅客数や貨物量の伸びが小さい要因は就航している機体が計画時に想定していた機体より小さいことが挙げられる。本事業対象空港における外国人利用客は増加傾向にあり、中近東等への国際便も増加していることから、本事業はチッタゴンの経済活性化に大きく貢献していると判断される。よって、本事業の実施により概ね計画通りの効果発現がみられ、有効性は高い。

本事業実施と国家計画等との整合性(妥当性) 評価a

本事業の実施は審査時および事後評価時ともに、国家計画等と合致しており、事業実施の妥当性は極めて高い。審査時、事後評価時を通じて、第4次、第5次5カ年計画および貧困削減戦略文書(PRSP)において運輸セクターの整備は重視されている。

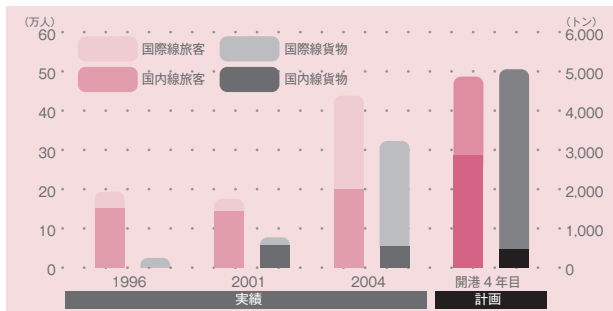
事業実施の経済性(効率性) 評価b

本事業は、事業費についてはほぼ計画通りであったものの、期間が計画を上回ったため(計画比147%)、効率性についての評価は中程度と判断される。事業遅延の主な要因は、消防車、救急車等本事業対象施設の整備に必要な機器の調達に時間を要したことが挙げられる。

今後の展望(持続性) 評価b

本事業は実施機関の財務面について、借入債務にかかる元利返済のために内部留保を取り崩す可能性があるという問題があるものの、実施機関の体制等は良好であり、持続性は概ね問題ないと評価される。実施機関は、タイ国際航空と空港運営にかかる業務委託契約を取り交わす予定であり、それによる国際空港の管理・運営ノウハウの技術移転を検討しており、今後空港サービスのより一層の充実および運営・維持管理費用の削減等が期待される。

チッタゴン空港における旅客数と貨物量の推移



開発途上国専門家の意見

本事業の実施により旅客数や貨物量、航空機発着回数が大幅に増加したことで、周辺地域および同国全体の経済に大きなインパクトをもたらしたと評価される。

専門家の氏名： Mr. Abdul Hye Mondal (学者)
統計中央大学(ポーランド)博士。ハーバード大学等にて研究。産業経済博士。バングラデシュ開発学会上級研究員。